

皮膚科のトリビア

221

浅井 俊弥(浅井皮膚科クリニック)

<http://www.asai-hihuka.com/trivia.html>

トリビア(trivia)=3を意味するtriと+道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにでもある場所」、そこから転じて「瑣末なこと」となり、今では雑学的知識、豆知識、などを意味する言葉として定着している。

本欄は、小誌・浅井編集委員が学会・研究会などで見聞きした「皮膚科のトリビア」をその都度まとめ、連載しています。ご意見等ございましたら、ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

●基幹病院病診連携促進委員会から

令和4年7月13日

フレイルとは

「フレイル」とは日本老年医学会が提唱した用語で、英語の「frailty(フレイルティ=虚弱)」に由来する。高齢期に生理的予備能力が低下することでストレスに対する脆弱性が亢進し、生活機能障害・要介護状態・死亡などの転帰に陥りやすい状態を指す。転倒のリスクが高まるなどの身体的問題のみならず、認知機能障害やうつなどの精神・心理的問題、独居や経済的困窮などの社会的問題もフレイルの概念に含まれる。また、フレイルは要介護になる一歩手前の状態であり、行政の地域包括ケア推進課は健康寿命延伸のためフレイル予防を勧めていて、その4つの柱は、運動、口腔、栄養、社会参加である。

一言コメント

「横浜市の調査では高齢者の14%がフレイル、32%がフレイル予備軍とのこと。予防を勧める最大の目的は医療や介護にかかる費用の削減だと認識している。」

●基幹病院病診連携促進委員会から

令和4年7月13日

Inbody720によるフレイル評価

Inbody720は体成分を分析する装置で、体水分量、部位別の脂肪量、筋肉量などを計測できる。健診に取り入れ、この結果をもとに栄養指導やリハビリの指導

を行うことで、フレイル、要介護予防に貢献できる。体水分量は体重の50～60%で、細胞内水分と細胞外水分は62:38が標準。浮腫率は体水分量に対する細胞外水分の比で、36～40%が標準。この機器では体幹、上肢、下肢の部位別浮腫率を計測できる。

一言コメント

「高齢者の下肢の浮腫に遭遇する機会が増えたと感じる。リンパ漏、うっ滞性皮膚炎、脂肪織炎や硬化、趾間の病変など皮膚疾患にもつながるので、評価ができる機器があればいいなと思っていた。Inbody720はそれに使えるようだ。」

●日本皮膚科学会第902回東京地方会から

令和4年7月16日

スタチンによる反応性肉芽腫性皮膚炎

60歳代の女性。脂質異常症にてロスバスタチン(スタチン)2.5mgを内服開始。3カ月後から両下肢の倦怠感を生じ、両下肢に数個の約1cm大の皮下結節が生じた。圧痛を伴っていた。右大腿の皮下結節から皮膚生検施行。真皮から脂肪織にかけて、好酸球浸潤を伴うlipogranulomaの所見。スタチン内服を中止したところ、結節は消褪傾向となり、4カ月後には完全に消失した。反応性肉芽腫性皮膚炎(reactive granulomatous dermatitis: RGD)と診断した

一言コメント

「RGDは薬剤、自己免疫疾患、悪性腫瘍などを背景に肉芽腫性の皮膚病変を呈する病態を包括した概念。薬剤

性のRGDとしては、TNF- α 阻害薬、ACE阻害薬などが報告されているらしい。スタチンの毛細血管に対する薬理作用が原因のような気がする。頻繁に使用されている薬剤なので、見逃されているのかもしれない。」

●日本皮膚科学会第902回東京地方会から

令和4年7月16日

Birt-Hogg-Dube (BHD) 症候群とは

遺伝性の頭頸部に多発する皮膚腫瘍を有するカナダ人1家系の報告が発端。その後、皮膚腫瘍のほかにも多発性肺嚢胞と自然気胸が高率に発症し、中年期以降に腎腫瘍をおこしやすいことが知られるようになった。また低頻度ながら消化管や内分泌臓器にポリープ、嚢胞、腫瘍を発症すると報告されている。17番染色体短腕に位置するフォリクリン[*folliculin* (FLCN)]遺伝子の変異によっておこり、常染色体優性遺伝の形式をとる。多発性肺嚢胞から本症を疑われた101例のうち、50%に皮膚病変が存在し、そのうちの6割は線維毛包腫(fibrofolliculoma)や毛盤腫(trichodyscoma)であった。

一言コメント

「日本人では多発性肺嚢胞、気胸でみつかると例が多いとのこと。皮膚病変は常色の小さな隆起性病変で、皮膚症状からBHD症候群を疑うのはむずかしそうだ。」

●横浜市プライマリ・ケア医会講演会から

令和4年7月29日

difficult patient (DP) の定義

difficult patient (DP) への向き合い方に関する講演。Cannarella LRの有名な論文があり、その中で、「DPとは医療者に強い陰性感情をひきおこす患者」と定義されていて「執着する人」「要求する人」「援助を拒否する人」「自己破壊的否定者」がこれに含まれる。診療時にストレスを感じる医師側の要因としては、医師のコミュニケーション能力不足、精神科領域のトレーニングが不十分、傾聴や共感を示すのが苦手、診断が不明確、横柄、独断的、イライラしている、自己防衛的、疲れている、睡眠不足、急いでいる、などがあげられる。

一言コメント

「診療後に公務が控えているときなどは、早く終わらせないと焦ることがある。こういうときこそ丁寧な診療をすべきであることは、これまでの経験でわかっているつもりである。」

●発売記念講演会から

令和4年7月30日

米国における酒皰治療薬

FDAが認可しているメトロニダゾール以外の酒皰の治療薬の変遷。Finacea：アゼライン酸外用、丘疹膿胞型(2002年)、Oracea：ドキシサイクリン徐放剤内服、丘疹膿胞型(2005年)、Mirvaso：プリモジニン外用、毛細血管拡張型(2013年)、Soolantra：イベルメクチン外用、丘疹膿胞型(2014年)、Epsolay：過酸化ベンゾイル徐放剤外用、丘疹膿胞型(2022年)。

一言コメント

「これだけ新しい薬剤が認可されるということは、メトロニダゾールだけでは管理できていない例が多いということだろう。治療とともに鑑別のむずかしさも感じている。」

●某製薬会社主催Web講演会から

令和4年8月30日

難治性の全頭脱毛症が オルミエント®内服で改善した

severity of alopecia tool (SALT) スコア重症(50～94)または極めて重症(95～100)の円形脱毛症654例を対象に、オルミエント®錠2 mgおよび4 mg 1日1回投与の有効性をプラセボと比較検証した無作為化二重盲検試験。36週後のSALTスコア20以下の達成割合は2 mg群で17.3%、4 mgで32.5%、プラセボで2.6%であった。病型によるサブグループ解析では、4 mg投与群において、通常型では48.1%、全頭型では21.3%、蛇行型では44.1%だった。

一言コメント

「SALT 0がほぼ100になった例を自ら経験した。JAK内服薬の凄さを実感した。」